

# どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

10月号(NO61)通巻211号

2023年10月10日(火)発行(毎月10日)

【農暦】赤とんぼは見たが少ない。虫の音も弱弱しい!

○酷暑から肌寒い気候に、予想はしていたがびっくりする。長袖でないと寒い。白山の室堂の積雪の映像を6日のテレビでみた。温度差に体調がついていけない。冬の掛布団にしたらく眠れた。夏と冬だけになって仕うのではないか心配になる。今日(9日)は雨模様で長袖にしたのだが肌寒い。長袖シャツを重ね着してしまった。

○赤とんぼは見たが少ない。虫の音も弱弱しい。ススキだけは何故か目立っている。酷暑で活動停止していた蚊が10月になり活発化しているという。稲の収穫はほとんど終わっている。酷暑で収量が気になる。魚沼産のコメが3等米になったとテレビでみる。秋刀魚が海水温の変化で獲れないという。酷暑はいろいろな所に変化を強いている。変化に順応出来ないと淘汰されると思うと怖いものがある。

○神宮外苑の森を伐採し都市開発の高層ビル建設なぞしている場合ではない。気候変動で一層森林が大事な状況の中で進めている。神宮の森はご神木である。保守的な人達が反対しないのが不思議とラジオで聴いたが、何とか止めたい。

○伐採のことで、太陽光発電で森林伐採も本末転倒である。米のことで、水田はダム機能があり治水になると云う。食料だけでなく、環境、景観などでも大きな役割を果たしている。耕作放棄地を見ると寂しくなる。日本は農業を大事にしていない。食料自給率は38%\*から見ても云える。国土の殆んどが山のスイスでさえ51%である。世界3位の軍事大国だけが目立つ。農業・食は基本である。やはり心配である。

○暑さの疲れも気になるが、草、蔓植物の繁茂は凄い。刈りとりを続けているが、まだまだである。白菜、ブロッコリーを少しだけでも植えたが、虫に食われ、ほぼ全滅である。最近基本を忘れている。土、虫対策が出来ていない。最近管理が簡便なものにしているのだが、それでも草の繁茂に負けている。これからは黒豆、小豆、ヤーコン、キュウイなどの収穫を楽しみにしている。ブルーベリーなどの選定作業したいと思っている。(了)



<菊芋の花>7日撮影



<黒豆>7日撮影

\*食料自給率；カナダ266%豪州200%米国132%フランス125%ドイツ86%イギリス65%スイス51%。

【楽農】<畑>ミニトマト、茄子は少々、ピーマンなど収穫。黒豆の一部を枝豆として収穫。薩摩芋の試し堀。栗は不在が多く量質難。草、蔓植物など刈り取り。

【楽市】イベント等；詩吟例会(14・28日)山野草の会(15日)飲み会(24日)共生つばさの会、川柳の会(5日)

**【つぶやき=Tweet】現代人の1日の情報量は平安時代の一生分！**

○8日のラグビーのワールドカップのアルゼンチンに27対39で負けベスト8入りを果たせなかった。互角の戦いだったがチョットしたミスや運不運が勝敗を分ける。僅差を追いかける素晴らし闘いに拍手をしたい。やはり勝たなくてはだが、勝敗だけでないものに拍手を送りたい。パリオリンピック予選、中国杭州のアジア大会で卓球、バレー、バトミントンなど多くの競技が行われている。プロ野球もと、テレビ観戦もままならない程多い。スポーツは、覇権を争うではなく善隣友好に繋がる。人種の壁も超えている。政治利用や五輪汚職は許せない。スポーツを汚してはならない。



＜帰り道で＞17日撮影

○「子どもだけの登下校や留守番も虐待」の子どもも放置禁止条例改正の自民県議案（埼玉）が出されると9日の朝日にあった。“保護者ら「追い詰められる」「監視社会に」、専門家「憲法に逆行」「かえって虐待招く」と小見出しにあった。何か基本のところ間違っている。母子家庭で働く母親はどうすればいいのだと直ぐ思ってしまう。問われるのは、母（男）子家庭でも子供を安心育てられる社会体制である。

○4日の朝日に不登校2割増最多29万人の見出しがあった。ただ管理強化すればいいわけではない。問題の根は別のところにある。保育士も教師も魅力ある職場で無くなって来ている。同じ紙面の天声人語に、黒柳徹子の「窓ぎわのトットちゃん」のことが書かれていた。“君は、ほんとうは、いい子なんだよ”校長先生はトラブルを起こす彼女にくり返した。もしもその励ましがなかったら、黒柳さんは感謝を込めて振り返っている。”とあった。



＜小野小町の里で＞29日撮影

○天声人語繋がりになるが8日版に、“コスパだのタイパだのと効率を迫られる世の中だから”で始まっていた。マイナンバーカード、AIだのと効率が良いのはいいが一方で怖い面がある。性善説に立てない社会だからである。情報を管理する側の視点から作られ、管理する側に一方的に情報を集中する。情報分散でなければ監視社会が進む。そうさせない配慮は必須である。

○帰りの寄り道で、小野小町の里で蕎麦を食べた。柿本人丸？、紀貫之の肖像画と歌を見たが、当然ながら比較しようもない別世界を見る思いがした。現代人の1日の情報量は平安時代の一生分であり、江戸時代の1年分だと云う。最近、過程が見えるアナログ時代が懐かしく感じる。デジタルは結果だけを認識する。情報と富を肥大化させ、豊かさと貧困、ストレスの現代社会には？が付く。情報と富の偏在が問われる。最後に、大袈裟な言いようをしてしまったことを反省している。(了)

○断捨離考：雑物の量多い、危険水域に？、

**【後記】情報過多！視点が大事か？【HP転載】**

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話：090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com